

時空を飛び(6)

ベランダ雑感(記) H・I M A G I N E

(暑さがぶり返したベランダで、空想にふけた。

外食は何と十数年ぶりとなった週末、八王子郊外のフレンチレストランでの昼食の光景をイメージした)

サービスタッフがタブレットを手に、妻と僕のテーブルにやって来て、腰をかがめて注文を伺う顔をみて驚いた。都会とは云えないこんなところにとても不釣り合いな美人で、しかもどこかで会ったような？ 親近感すら覚える、ちよつとしたサブライズであつた。

店内は二人掛け、四人掛けテーブルが十数卓。置物やタペストリーが欧風の雰囲気をかもし出して、若い家族連れから中年のお客さんで八割がた埋まっている。よく見ると昔と違って、子供がわずか一人の家族連れが何組か、そして中年以上が割合と多いお客さん等で、まさに少子高齢化の今どきの店内であつた。

見渡すと、ホールスタッフが随分少ないような気がする。どこでも人手が足りなくて大変なんだろうなあ、と若い働き手不足のご時世を思った。

(後日のことだつた・・・)

作家で映画監督の川村元氣さんが、どこかの講演か対談か執筆上か、かいつまんだ程度の情報で話の主旨は解からなかったが、中で面白いことを述べていた。

「昔は、人手や人力の助けのために牛馬の力を借りていたが、今はロボットだ、と考えればいい」と。

なるほど、器械の登場はまさにその通りだろう。そして、その器械もさまざまに進化を遂げ、今や人間や生物が繰り出す複雑な動きを備えたロボットが活躍している。

そして今、時代の寵児・AIが登場して、世の様相を一変させている。人間や生物の格好をしたロボットがAI・・・と、考えたところで・・・)

そうか、あの八王子のフレンチレストランの美人サービスタッフは、どうも、どこかで見た顔だなと思っていたが、彼女はあの女優さんだ！そう川口春奈さんにそっくりだった。声は川口さんでは無かったような気もするが。

それ、本人である筈無い。ロボットかも知れない。そう、多分人型AIロボットで、人手不足で雇ったのだ。懸案である国際間の人材協力的一方、時代が希求している一手に違いない。

以上は、あくまで空想・・・・・・・・・・・・・・・・

しかし僕はリゾートの仕事に携わった経験から、他人事でない現在の人手不足に、それは一つの光明のように思った。

ニュースで日本の今を垣間見るたび、人手不足は相当深刻だ。それはそうだろう。今や、人口そのものが激減している。

政府の人口動態調査によれば、二〇二三年の出生児は七十二万人、百万人を割ったのが二〇一六年、ベビーブーム第一次(一九四七〜四九年)には二百六十万を超え、第二次(一九七一〜七四年)で二百万人を優に超えていた。因みに僕ら出生の一九四〇年も二百一十万人超。昨今は思考が飛んでしまうほどの激減だ。

なお、厚生労働省や帝国データバンクの調査によると、人手不足感が強い業種には、医療・福祉、建設業、運輸業、旅館・ホテル、情報通信サービスなどで、地方は特に幅広く顕著とのこと。

そして「少子化」の一方で、水道・道路・鉄道・高架橋などのインフラが老朽化し、日本社会全体が「老い」に向かっている。

まさに少子・高齢化で「縮む日本」。この打開のため、持てる国の人知を結集して速やかに立ち向かうべき重要課題である。

(完)